

総合ゼミ報告——今年度の実施状況

村瀬優花 愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻（音楽学コース）

1. はじめに

音楽学研究総合ゼミ（以下、総合ゼミ）は週に一度行われ、音楽学コースに属する学生と教員が集まり、それぞれの研究発表やそれに関する意見交換をする場である。学生と教員が同じ立場で発表し意見を交換することを目的として2006年度に開設された「音楽学コロキウム」が、2008年度に「音楽学研究総合ゼミ」となってカリキュラムに組み込まれた。音楽学コースの学部生は必修の授業である。

総合ゼミでは、音楽学コースの学生や教員の研究発表の他に、外部の研究者や講師のレクチャーも行われる。本年度も、さまざまな分野の専門家によって幅広い内容の講座が開かれた。

以下に、学生の研究発表以外の講座について報告する。

2. 2017年度の総合ゼミにおいて行われた講座

■ 5月11日 安原雅之教授（愛知県立芸術大学・音楽学）

「テルミン講座」

■ 6月1日 村田四郎名誉教授（愛知県立芸術大学・フルート）

「村田四郎のここでもしか聞けない話 Part6——もう特殊音・特殊奏法という呼び方をやめませんか？」

■ 6月15日 松本香苗氏（愛知県立芸術大学卒業生・ピアニスト）

「音楽学コースの“ようこそ先輩”シリーズ——アメリカ音楽事情：ロサンゼルスとニューヨークでの私の経験」

- 6月22日 小林英樹名誉教授（愛知県立芸術大学・油画）
「音楽学部の学生のための美術講座——絵画とは何か、あるいは、どこまで可能なのか？：19世紀終盤から20世紀中頃までの作品を観ながら考える」
- 6月29日 高梨光正准教授（愛知県立芸術大学・芸術学）
「1の中に、2と3が内在する。その鍵は6。——ルネサンス舞曲の2拍子と3拍子」
- 7月6日 森真弓准教授（愛知県立芸術大学・デザイン）
「音楽学の学生のためのインフォグラフィックス講座」
- 7月13日 伊藤円氏（愛知県立芸術大学卒業生・コレペティートル）
「音楽学コースの“ようこそ先輩”シリーズ——ドイツの音楽事情：ライブツィヒでのコレペティ生活」
- 10月19日 七條めぐみ氏（愛知県立芸術大学非常勤講師・音楽学）
「『ガゼット・ダムステルダム』紙が映し出す近世ヨーロッパの音楽文化——1695年～1720年の音楽関連広告の調査から」
- 10月26日 井上さつき教授（愛知県立芸術大学・音楽学）
「米国領事報告から見る近代日本のピアノ製造」
- 11月9日 村田四郎名誉教授（愛知県立芸術大学・フルート）
「村田四郎のここでしか聞けない話 Part7——続・もう特殊音・特殊奏法という呼び方をやめませんか？」
- 11月16日 高梨光正准教授（愛知県立芸術大学・芸術学）
「20世紀後半の古楽復興と絵画修復の歴史——オリジナルとは何か」

- 11月23日 安原雅之教授（愛知県立芸術大学・音楽学）
「パイプオルガン教室」

- 11月30日 佐藤（初見）菜穂子氏（群馬県済生会前橋病院・医師）
「病院での芸術アウトリーチ——患者心理を知る」

- 11月30日 メアリー・ジャヴィアン氏（コントラバス奏者、カーティス音楽院・進路指導部）
「音大生にとっての病院アウトリーチ：カーティス音楽院の場合」

- 12月7日 ジャン・ジャック・バレ教授（ジュネーヴ音楽院・室内楽／本学短期外国人客員教授）
「ジャン・ジャック・バレ先生をお迎えして①——ジュネーヴ音楽院での教育」

- 12月14日 ジャン・ジャック・バレ教授（ジュネーヴ音楽院・室内楽／本学短期外国人客員教授）
「ジャン・ジャック・バレ先生をお迎えして②——現代の作曲家との交流」

- 1月11日 中巻寛子教授（愛知県立芸術大学・声楽）
「カルダーラのオペラ《不変の愛は策略に打ち勝つ》——その上演と改訂の歴史」

- 1月18日 檜下達也准教授（京都教育大学・教育学）
「近代日本の学校音楽教育における器楽教育成立の歴史」

3. おわりに

上記の講座の他に、データベース講習会が2回行われた。学生による研究発表は、大学院生が3回、学部4年生が2回、3年生が1回行った。

本年度も、多くの方々にご協力いただき、多岐に渡る分野の講座の機会に恵まれた。講演を行っていただいたゲストスピーカーの皆様に感謝を申し上げる。音楽学コース一同、貴重な場である総合ゼミのさらなる発展に努めていきたい。